

第 3 回 富士見市文化芸術振興委員会議事録

日 時	令和 5 年 8 月 2 5 日 (金) 1 8 : 3 0 ~ 2 1 : 0 0						
会 場	富士見市役所 第 1 会議室						
出席者	高野	水野	峠	近藤	山本	多田	秋元
	○	○	×	○	×	×	○
	大沼	谷澤	齊藤	星野	山崎	千葉	池嶋
	○	×	×	○	○	○	○
	事務局：文化・スポーツ振興課 下田課長、高橋副課長、熊						
1	開 会						
2	副委員長挨拶 ※委員長欠席のため						
3	議 事						
	(1) 第 2 次富士見市文化芸術振興基本計画 基本目標等の内容検討						
	【事務局より資料に基づき説明】						
	・第 2 回の続きとして、今回は基本目標 3・4 について意見を伺った。						
	基本目標 3 育む						
	【意見・質疑】						
	施策の柱「鑑賞機会の充実」						
	委 員：これまでに、保育園や幼稚園でコンサートを実施した経験がある。また、仙台のジャズフェスティバルでは、イベントに協力する店舗前スペースでコンサートを実施している。						
	委 員：産婦人科医院でコンサートを実施している例もある。						
	委 員：川越市では、神社やお寺の敷地でも合唱コンサートを実施している。資金は、参加者の参加費で賄っていたようだ。						
	委 員：大型の商業施設とも連携を持ち、相乗効果で周辺を盛り上げる気持ちを持つことが大切ではないか。						
	施策の柱「日常生活の中の文化芸術」						
	委 員：図書館やキラリ☆ふじみの水辺を生かしてはどうか。						
	委 員：鶴瀬駅東口からららぽーと富士見までの道路を、イベントなどに活用できるとよいのではないか。						
	委 員：街なかの空間活用には、なにかコンセプトを決めてもよいのではないか。						
	委 員：街全体で盛り上げようとする気持ちがあり、主体も多様であることが重要ではないか。						
	施策の柱「豊かな文化芸術活動が持続できる環境づくり」						
	委 員：相談する側も、市役所へどのように相談すれば良いかわからない。						

事務局：市職員も定期的に異動するため、知識があるとは限らない。専門性のある職員がいるキラリふじみの活用も検討したい。

委員：市民がイベント等に協力できる仕組みづくりが必要ではないか。文化芸術の専門知識が無くても力仕事ができる、装飾ができる、お金なら出せる等、自分ができることで協力したい市民はいると感じている。

委員：文化芸術活動に新たな参加者を増やす取り組みが必要ではないか。

委員：平日の公民館利用サークルは知り合い同士で構成されている例が多く、新規の人は入りづらく感じる。

施策の柱「文化芸術を活かしたふるさと意識の共有」

委員：市制施行50周年記念映像のように、映像を流すのは有効だと感じた。

委員：都市宣言塔は文字のみだけのため、情報が伝わりにくい。映像であればすぐ理解できる。

事務局：情報を届ける良い方法は。

委員：まだ紙媒体が有効である。そのほかの方法としては、小学校・学童が使用する保護者宛のメールを活用できるとよいのではないか。

基本目標4 支える

【意見・質疑】

施策の柱「文化芸術活動を支える（コーディネート機能）組織づくりの推進」
「文化芸術振興の担い手（マネジメントやコーディネートを担当する人材）の育成・配置」

委員：、昨年度実施された市の補助金事業では、市民の実行委員が忙しく大変そうであった。もっと多くの市民に協力してもらえる仕組みが必要ではないか。

委員：文化芸術事業に関する相談も行いたい。コーディネート機能がほしい。

委員：担い手づくりにはまずイベントを開催して参加してもらうことが重要である。成功した経験が楽しい、続けたいという気持ちにつながる。

施策の柱「指導者の確保・育成、アーティストの活用」

委員：アーティストバンクについて、本人の同意があればある程度の個人情報も掲載して良いのではないか。アーティストバンクに登録したアーティストに出演等を依頼する場合は、原則として有料とすべきではないか。

委員：アーティストバンクはアーティスト同士の繋がりができ、新たな事業を生み出すチャンスでもある。

委員：富士見市出身でなくでも、富士見市で活動したいと思う人を集める仕組みづくりが必要。

委員：アーティストバンクに愛称をつけ、親しみを持てる制度にすると良い。

施策の柱「公民館や交流センター、コミュニティセンターなどの施設の充実」
「キラリ☆ふじみの施設の充実」

委員：キラリ☆ふじみで2020年9月にライブのイベントを行った際、持ち込んだ機器の回線を引くことができなかった。整備してほしい

施策の柱「行政の文化化（情報の共有・職員の意識の向上）」

事務局：行政の文化化は、行政職員が実際に文化芸術を体験することでより良い文化行政に取り組むことを目的としている。

施策の柱「文化芸術振興の経済的な支援」

委員：文化芸術にも経済的な支援は必要である。

事務局から、以上の意見をまとめ資料として郵送する旨説明。

(2) 次回の会議日程について

日時：11月頃 ※事務局から追って連絡

内容：政策会議資料の確認

(3) その他

なし

4 閉 会